

# 新潟県の宗教空間 — 寺院・神社・教会の分布を通して —

松井 圭介

## I はじめに

新潟は豊かな宗教的土壌を持つ県である。鎌倉新仏教の教祖たちである親鸞と日蓮が、越後と佐渡にそれぞれ配流されたことは有名であるが、出雲崎に生まれた良寛を始め、創価学会の牧口常三郎、立正佼成会の庭野日敬など新潟県に縁を持つ宗教者には枚挙にいとまがない。

しかしながら新潟県の宗教的土壌は、これら一部の傑出した宗教者のみによって代表されるものではない。神道系宗教団体の数で全国第1位を誇る新潟県は<sup>1)</sup>、守門岳や黒姫山、八海山といった山岳信仰で有名な山々や、越後一宮である弥彦神社、真宗の一大拠点である上越市や法華宗陣門流の総本山のある三条市、新潟市の寺町が作り出す宗教的景観、越後三十三観音札所として名高い各霊場などでも知られている。新潟の宗教的土壌の豊かさとは、これら様々な諸要素が融合したところに醸成されてきたものであり、この宗教的土壌を礎に、新潟県の宗教空間は構成されているのである。

本稿の目的は、この新潟県の宗教空間を地理学的に記述・分析することにある。ここでは宗教を、文化現象の一要素として措定し、新潟県における仏教各宗派寺院、神社本庁系に属する神社、および天理教の空間的分布パターンの分析を行う。その際のデータとしては、新潟県総務部文書学事課編による『新潟県宗教法人名簿』を主とし、教団の内外から発行されている資料を用いた。次にここで得られた空間的分布パターンを基に、新潟県

を仏教宗派、神社のそれぞれを指標として、宗教的な等質地域に区分し、新宗教をも加味して新潟県の宗教空間に関する考察を行った。

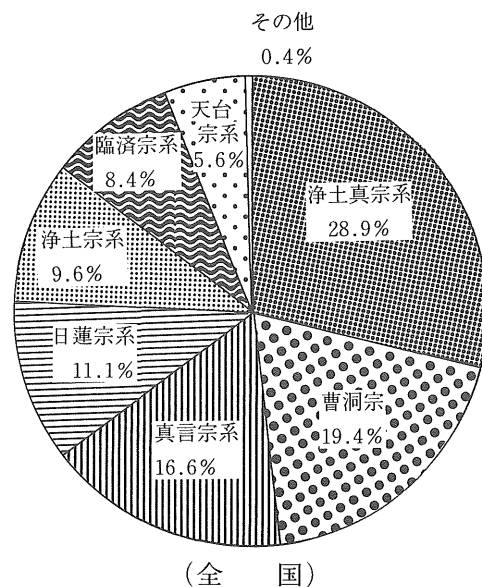
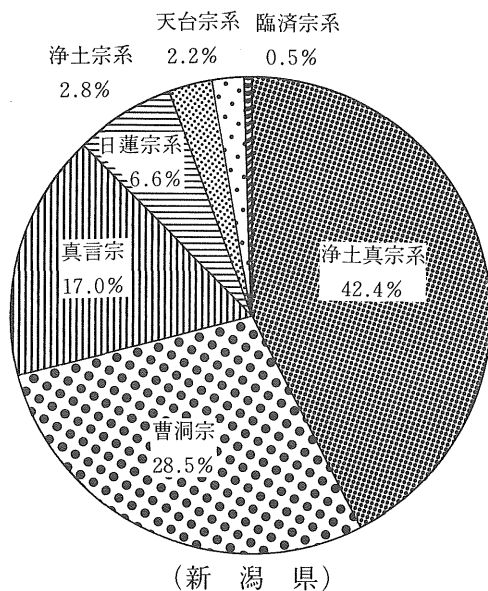
## II 仏教各宗派の分布と地域区分

### II-1 仏教宗派別の分布状況

第1図は新潟県の寺院宗派別構成比および、日本全国における各宗派の寺院構成比を示したものである。新潟県には2879の寺院があるが<sup>2)</sup>、その内訳を見ると浄土真宗系（以下真宗系と略す）が最大（1220寺）で全体の42.4%を占め、以下曹洞宗（822寺）の28.5%、真言宗系（488寺）の17.0%が続き、浄土・日蓮・天台の各宗派系が少ないことがわかる。日本全国における構成比と比較すると、新潟県の特徴としては、真宗系の割合が非常に高く、また曹洞宗も割合が高いこと、真言宗系は、ほぼ全国平均であり、日蓮宗系はやや少なく、浄土、臨済、天台各宗派系が全国平均よりも非常に少ないことがわかる。真宗系、曹洞宗、真言宗系各派の県内における主要な分布の地域的パターンは次の通りである（第2図）。

#### 1) 真宗系

真宗系は、新潟県で最も卓越する仏教教団である。先述したように、県内寺院の42.4%を占め、他の北陸三県とともにいわゆる「真宗王国」を築いている。しかしながらその勢力圏は全县に一樣なものではなく、分布には特徴が見られる。真宗が首位である市町村は全体の42.9%にあたる48市町村である。そのうち8町村（中郷・味方・山古



第1図 新潟県の仏教系宗教法人数・宗派別構成比，および文部省所轄宗教法人数（仏教系）

注1) 構成比は小数第2位で四捨五入した。

2) 単立宗教法人は除く。

(新潟県総務部文書学事課編『新潟県宗教法人名簿』昭和61年3月31日現在，および文化庁編『宗教年鑑』昭和62年度版より作成)

志・月潟・潟東・牧・妙高・妙高高原)は，真宗寺院が独占している地域であり，真宗寺院の割合が70%を越える市町村は24に上る。これら真宗が卓越している地域は，富山県境に近い頸城郡を中心とする地域や，越後平野を中心とする地域である。これに対して，真宗寺院が分布していない町村も，21町村あり，全宗派の15%以下である市町村は39に及んでいる。特に東蒲原郡や岩船郡といった県北部，東部の丘陵・山岳地帯，および佐渡では真宗の勢力は微力であり，新潟県を単に真宗王国として一括することはできない。

## 2) 曹洞宗

曹洞宗もまた真宗とともに，寺院を指標とした宗教的等質地域区分を行う際の鍵となる宗派である。44の市町村で寺院構成比の首位であり，5つの町村(松代・入広瀬・守門・加治川・粟島浦)では曹洞宗独占地域となっている。全部で14の市町村において構成比が70%を越えているが，地域

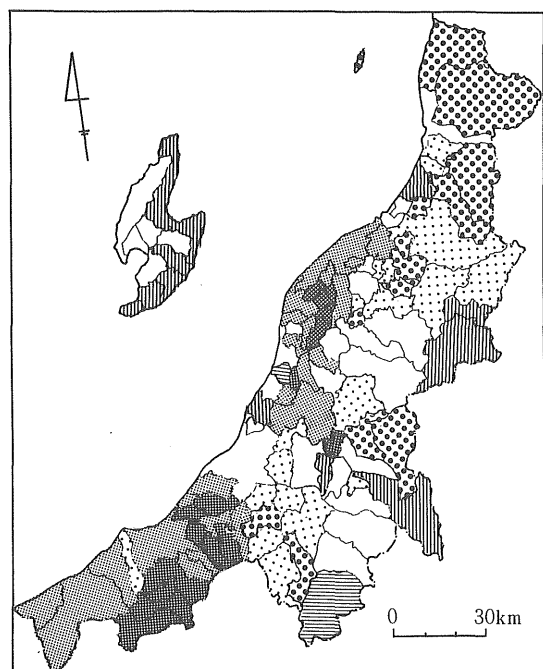
的にみると，岩船郡・東蒲原郡といった真宗希薄地から越後平野にかけての地帯，および中・北魚沼両郡で卓越している。これに対し曹洞宗寺院が存在しない町村は，真宗よりも少なく，10町村に留まり(真宗独占の8町村と黒埼，中之島)，曹洞宗の分布はほぼ全県にわたっていることがわかる。

## 3) 真言宗系

真言宗系寺院は，数の上で真宗，曹洞宗に次ぐ第3の位置にある。77(全県の68.8%)の市町村にわたって分布しているが，特に佐渡や東蒲原郡では最大の宗派となっている。真言宗が寺院構成比の首位を占める市町村は21に及ぶが，中でも津川，赤泊，中条，川口，羽茂，畑野の6町村では，構成比が60%を越えている。

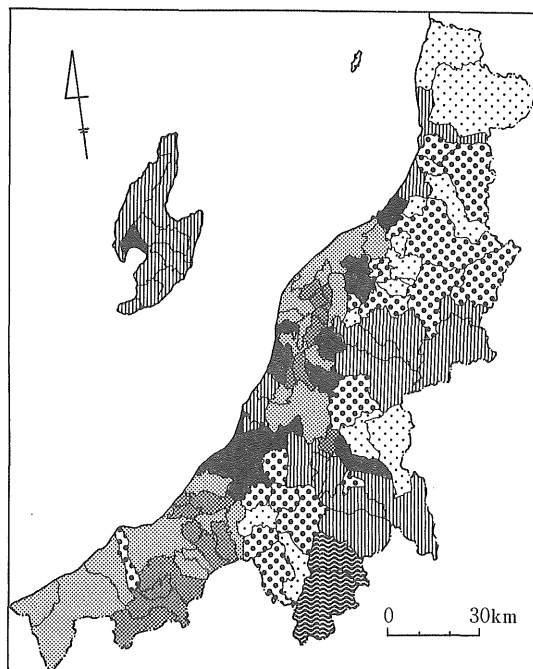
## Ⅱ-2 仏教宗派を指標とする等質地域区分

第3図は，新潟県の112市町村に関して，先に



真宗系寺院が70%以上の地域  
曹洞宗寺院が70%以上の地域  
真言宗系寺院が50%以上の地域  
真宗系寺院が50%以上の地域  
曹洞宗寺院が50%以上の地域  
その他の宗派寺院が50%以上の地域

第2図 仏教宗派の分布（資料：第1図に同じ）



A 1 類型 B 1 類型 C 類型  
A 2 類型 B 2 類型 D 1 類型  
D 2 類型

第3図 仏教宗派を指標とする等質地域区分  
（資料：第1図に同じ）

挙げた7つの仏教宗派の寺院数の構成比を属性とし、ワード法クラスター分析を用いて、類型化を行ったものである。その結果まず、A、B、C、Dの4グループに分類され、さらにA1(18個)、A2(21個)、B1(14個)、B2(2個)、C(25個)、D1(19個)、D2(13個)の7類型が得られた。

#### 1) A1 類型

この類型の特徴は、真宗の絶対的な卓越性にある。本類型に属する14市町村を平均すると、真宗寺院の占める割合は91.3%に達し、まさに真宗卓越型であるといえる。高田平野から中頸城郡の山岳地帯にかけての地域と、越後平野の西川町から潟東、月潟、燕、中之島、与板と続く信濃川の下流域の市町村にこの類型が見られる。

#### 2) A2 類型

A1 類型と同様、この類型も真宗の卓越性によって特徴づけることができる。しかし、その卓

越性はA1 類型ほど絶対的なものではなく、A2 類型に属する21市町村の平均では、真宗寺院が65.5%、曹洞宗寺院が21.7%、真言宗寺院が8.5%となっている。したがって本類型は真宗中心型ともいべき型である。この類型に属する地域は、先のA1 類型を取り巻く形で分布している。柿崎町、大島村以西の長野・富山両県との県境に位置する地域、および越後平野の新潟市、豊栄市を北端とし長岡市まで至る信濃川流域地域に分布が集中している。

#### 3) B1 類型

この類型は、真宗寺院と曹洞宗寺院の割合がほぼ拮抗（平均で37%と32.9%）し、さらに真言宗（同13.7%）、日蓮宗（同13.1%）が続く、いわば各宗派バランス型ともいべき類型である。こ

こでは日蓮宗の割合が、県内構成比（7％）と比較して特に高いことが伺える。寺泊、和島、三条といった日蓮宗寺院の多い地域や佐渡の佐和田町、柏崎市、北蒲原郡などに見られる類型である。A1、A2類型地域の間隙を埋めるようにこれらの地域が分布していることがわかる。

#### 4) B2 類型

この類型に属する町村は、わずかに2つ（塩沢町・湯沢町）だけである。しかし本類型は、天台宗系寺院が卓越し（43.6％）、臨済宗系がそれに続く（22.5％）という点で、県内他の市町村にはない特異な地域となっている。両町とも三国山脈に近い山間部に位置している。

#### 5) C 類型

真言宗系寺院が卓越している点にC類型の特徴がある。本類型に属する25の市町村の平均では、真言宗系（46％）、曹洞宗（23.8％）、真宗系（15.2％）となっている。本類型は大別すると次の3つの地域に分布している。第1に佐和田町を除く佐渡島内の全市町村。第2に海岸部の出雲崎、西山、刈羽から内陸部の小千谷、大和、湯之谷にかけての中越地域。そして第3に津川、上川、村松、加茂などといった越後平野の東部にある丘陵地域であり、それぞれの分布には地理的な連続性が見られる。

#### 6) D1 類型

D類型は、いずれも曹洞宗が軸となる類型である。D1類型は、曹洞宗が卓越（57.6％）し、次に真言系（15.2％）が多く、県平均構成比と比べ天台系（5.6％）、浄土宗系（6.4％）の割合が高い型である。この類型は、十日町盆地を中心とする信濃川沿いの長野県境に近い地域、および北蒲原郡東部の京ヶ瀬、水原、小須戸、五泉から東蒲原郡北部、岩船郡南部にかけての地域に広がっている。

#### 7) D2 類型

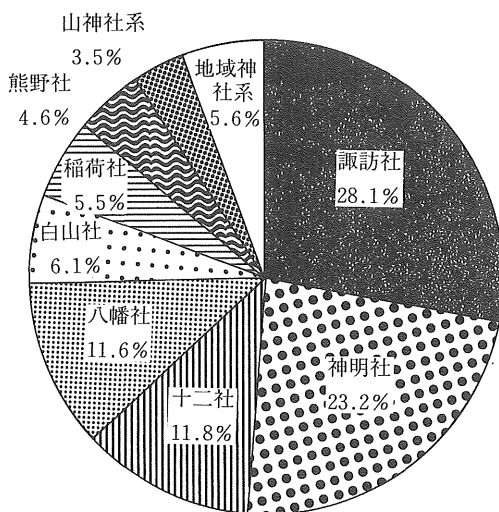
D1類型よりもさらに曹洞宗が卓越的な地位にあるのがこのD2類型である。本類型では、A1類型における真宗と同様、曹洞宗の平均構成比は、89.9％に達し、絶対的な卓越性を有している。A

1類型と同様、越後平野東部から県北の岩船郡にかけての地域と、長野県境に近い松代、中里、および魚沼丘陵の守門、入広瀬などの町村がこの類型にあたる。

### Ⅲ 神社の分布と地域区分

#### Ⅲ－1 神社系統別の分布状況

本稿で対象とする神社とは、昭和61年3月現在の新潟県宗教法人名簿に記載された神道系宗教法人のなかで、神社本庁に属する4852社（新潟県における全神道系宗教法人の97.3％）を指す。第4図は、新潟県にある神社本庁系宗教法人数を、特に数の多い9つの系統に分類し、その構成比を表



第4図 新潟県の神社本庁系宗教法人数・神社別構成比

注1) 構成比は少数第2位で四捨五入した。この構成比は、本に挙げた9種類の神社を全体とする構成比である。

2) 合祀殿はそれぞれの神社において数に入れている。

3) 山神社系とは、山神社と大山祀神社の合計である。

地域神社系とは、守門・川内・弥彦・松茸・矢放・黒姫・八海・古志王・金北山・菱・各神社の合計である。

（新潟県総務部文書学事課編『新潟県宗教法人名簿』昭和61年3月31日現在より作成）

したものである<sup>3)</sup>。新潟県では諏訪社が924社(28.1%)で最も多く、以下神明社の763社(23.2%)、十二社の387社(11.8%)と続いている。まずこれらの神社の中から新潟県の宗教空間を構成する代表的な神社を4種類取り上げ、その地域的分布パターンを見ていくことにする。

#### 1) 諏訪社

新潟県に最も多い神社がこの諏訪社である。長野県の諏訪大社が本社であり、元々長野県から伝播してきたものであるが、諏訪社の数は、新潟県が長野県を越えて全国1位となっている<sup>4)</sup>。新潟県史によれば、越後の諏訪社には戦国時代末期もしくは近世初期以後成立したものが多く、平野部の新田開発の発展とともに水神として勧請された。したがって湿地帯や氾濫原付近に祀られることが多いことが指摘されている<sup>5)</sup>。地域的に見ると、信濃川下流域にあたる越後平野の長岡から新潟市にかけての地域、および関川流域の高田平野を中心とする地域に多く、山間部や佐渡、北蒲原から岩船にかけての県北地域にはほとんど分布していない。このことは、諏訪社が、信州から頸城地方に伝播し、平野部に沿って蒲原地域まで伝播していったものと考えられる<sup>6)</sup>。

#### 2) 神明社

神明社も諏訪社と同様、近世に沖積平野の開拓に伴ってできた各地の新田村に勧請されて広まったものである。ただし神明社は、伊勢御師という宗教者による組織的な信仰伝播が行われた点で諏訪社とは異なる<sup>7)</sup>。農業神でかつ新田村に伝播されたという性格上、諏訪社と同様に高田平野から越後平野にかけての平野部に多く分布しているが、特に新発田、新津両市、北蒲原郡、中頸城郡では卓越的であり、南魚沼郡や岩船郡にも多く分布している。その反対に東蒲原郡や北魚沼郡、栃尾市や古志郡、東頸城郡といった丘陵・山間部には少なく、また佐渡には分布していない。

#### 3) 十二社・山神社系

最も原初的な信仰であり、聖なる森や岩、水などを祀るものから、山の神を祀るものまで信仰は多岐にわたっている<sup>8)</sup>。信仰の性質上、分布域は

山間部に集中しており、市部では小千谷と六日町、郡部では、東蒲原、古志、魚沼地方、および東頸城の丘陵地帯に多い。

#### 4) 地域神社系

新潟県の地域神は概してその規模が小さく、信仰圏も狭いものが多い<sup>9)</sup>。これらの地域神は守門神社(守門岳)、菱神社(菱ヶ岳)、松芋神社(松芋山)、黒姫神社(黒姫山)、弥彦神社(弥彦山)、八海神社(八海山)など地域の名山を信仰の対象とする神社が主である。弥彦神社のように県下に分散している神社もあるが、多くの地域神の分布は御神体である山を中心とする領域に集中する。特に栃尾市、入広瀬、守門両村における守門神社と松代町の松芋神社は、市町村内神社数に占める割合が高い。

### Ⅲ-2 神社を指標とする等質地域区分

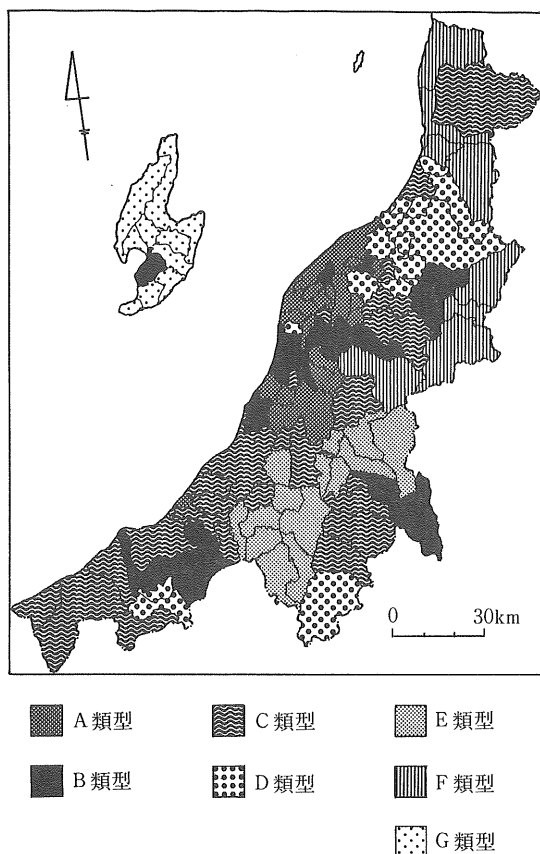
第5図は、仏教宗派と同様、神社数を属性とし、ワード法クラスター分析を用いて、新潟県内111市町村(資料のない粟島浦村を除く)を類型化したものである。その際には、先に挙げた、新潟県の神社構成の基幹をなしている9つの神社系統を全体とする各神社の構成比から分析を行った。その結果A(19個)、B(20個)、C(26個)、D(15個)、E(14個)、F(8個)、G(9個)の7類型が得られた。

#### 1) A 類型

この類型は、諏訪社が卓越する農業神信仰地域に見られる類型である。本類型に属する19市町村の平均で、農業神である諏訪社が50.6%、神明社が29.6%を占めるのに対して、山の信仰を代表する十二社(1.9%)、山系(0.9%)の神社が極端に少ないのがこの類型の特徴である。本類型は主に、信濃川下流域の越後平野南部に分布している。

#### 2) B 類型

B類型もA類型と同様に、諏訪社が卓越(40.4%)するが、神明社の割合が低く(7.7%)、反対に八幡社の割合が高い(23.2%)という類型である。本類型は主に、越後平野および高田平野と丘陵部との境界地域に分布している。



第5図 神社を指標とする等質地域区分  
(資料：第4図に同じ)

### 3) C 類型

C 類型は、卓越する神社がなく、各神社の構成比がほぼ均衡している類型である（諏訪23.1%，神明23.0%，八幡12.2%，十二12.2%など）。各神社の構成比は県内全域の構成比平均値とほぼ一致する。柏崎以西の上越地方，南魚沼郡，および栃尾市から村松，五泉にかけての越後平野外縁部に主な分布が見られる。

### 4) D 類型

この類型は，A 類型における諏訪社と神明社の割合が逆転した類型といえる。すなわち神明社が55.8%で卓越的な地位にあり，次いで諏訪社が16%を占めており，農業神への信仰が強い地域である。越後平野北部の北蒲原郡，新発田，新津市，および中頸城郡の山間部や湯沢町もこの類型に属

している。

### 5) E 類型

この類型はA～D 類型とは異なり，十二社（47.6%）と地域神（16.8%）が卓越する類型である。このE 類型の分布には高い地理的連続性がある。入広瀬，守門，広神といった守門神社の信仰圏から，十日町盆地を経て大島，松代，松之山，津南町といった長野県北信地方へと続く地域に集中している。この地域は守門岳，八海山，松芋山などの地方名山の山麓にある丘陵地帯に位置し，地域の山岳神や原初的なヒエロファニー<sup>10)</sup>を祀る神社の卓越する地域である。

### 6) F 類型

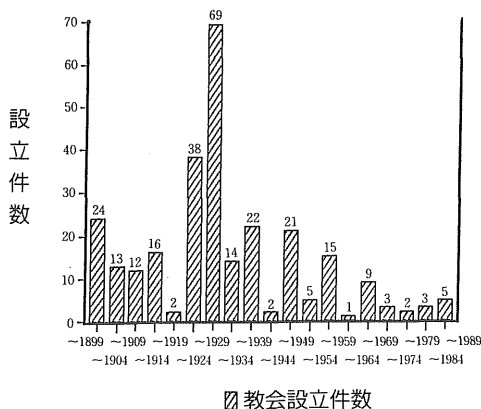
この類型にはE 類型の北部，下田村から東蒲原郡の上川，津川，鹿瀬を経て，岩船郡へと続く越後山脈や朝日山地沿いの地域が含まれる。山間部が多いこの地域は，山神社系（38.8%）の割合の高さによって特徴づけられる類型といえる。信仰の対象から見て，E 類型と類似する宗教空間を持つ類型であるといえる。

### 7) G 類型

この類型は真野町を除く佐渡全域が含まれる類型であり，また佐渡に特徴的な類型である。白山社（38.7%），熊野社（28.7%）の割合が高く，神明社や稲荷社が分布していないことが特徴である。

## Ⅳ 新宗教の分布—天理教を例として—

新潟県には，現在276の天理教教会（新潟，北洋の2大教会を含む）および205の布教所がある<sup>11)</sup>。天理教の新潟県への伝道は，1882年（明治15）に始まるとされ，これは中部地方において最も早い伝道であったと言われている<sup>12)</sup>。新潟県は真宗王国と呼ばれる北陸四県の中では，最も新宗教の受容に寛容な地域であり，天理教を始め，立正佼成会，世界救世教，創価学会，金光教，PL教団など多数の教団がその教勢を拡大している<sup>13)</sup>。本稿では，これら多くの新宗教の中でも，統計資料が最も整備され，かつ聴きとり調査を行うことができた天理教の伝播に焦点を当て，新潟

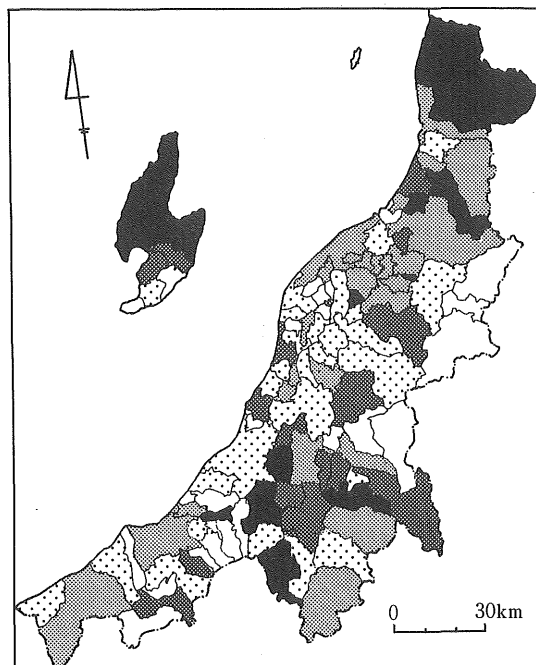


第6図 新潟県における天理教教会の設立年次別件数（教団資料より作成）

県における新宗教の展開を見ていくことにする。

第6図は、新潟県内における天理教教会の設立年次を表したものである。天理教では、1889年（明治22）から教会設置が始まるが、新潟県では1894年（明治27）に設立された小千谷分教会がその最初である<sup>14)</sup>。翌1895年（明治28）新潟市内と新穂村に教会が設立されると、以後順調に教会が設立されている。特に教会設立の動きが顕著となるのは1920年代であり、現在ある教会の約40%は、この10年間に設立されている<sup>15)</sup>。教会の設立を地域ごとにみると、新潟、柏崎、小千谷、佐渡といった地域を拠点に次第にその周辺地域へと広がっている。

第7図は、天理教教会と布教所の市町村別分布を対人口比から算出したものである<sup>16)</sup>。全国平均は約1.5教会／1万人ほどであるから、図中に見られる3教会以上／1万人の地域は、かなり密度の高い地域であることが伺える。これによると佐渡の中部から北部にかけての地域、岩船郡北部、および信濃川中流域の長野県北信地方との県境地帯に天理教が強い影響力を持っていることがわかる。対人口比が最も高いのは、相川町の1万人あたり6.8教会で、ついで小国町、加治川村の順となっている。これに対し、東蒲原郡の鹿瀬、津川、上川から入広瀬、守門、山古志にいたる県東部の山岳地域、および新潟平野南部から上越にいたる



対修正人口比  
 3教会／1万人以上  
 1.5／1万人  
 1／1万人未満  
 教会、布教所のない市町村

第7図 天理教教会 修正人口比  
 （新潟地区教会住所録及びセンサスより作成）

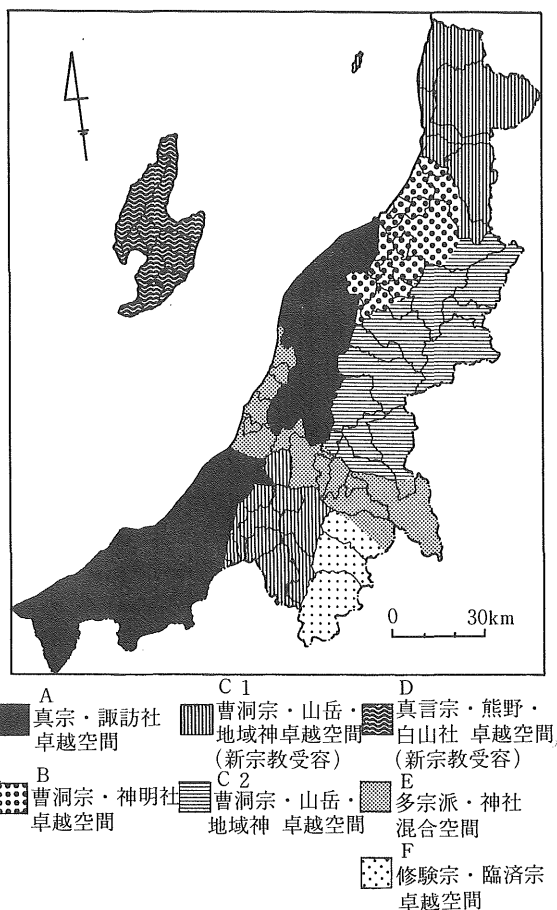
真宗卓越地帯には、天理教が十分に浸透していないことがわかる。真宗の卓越地域における天理教の伝播の困難性に関する研究は高野（1958, 1970）<sup>17)</sup>の研究に詳しいが、ここでは従来都市型の宗教であるとされていた天理教が対人口比でみる限り、必ずしも新潟市や長岡市といった都市部よりも、むしろ周辺の農村域で強いことを指摘しておきたい。

## V まとめ—新潟県の宗教空間

以上得られた結果を基に、新潟県には次の6つの宗教空間を設定することが可能である（第8図）。

### A. 真宗・諏訪社卓越空間

真宗と諏訪社がそれぞれ卓越している空間であ



第8図 新潟県の宗教空間  
(第3図, 第5図, 第7図より作成)

る。この真宗と諏訪社の分布傾向には類似性が見られ、新潟県西部の上越地方、および新潟市から長岡市にかけての信濃川流域にあたる中蒲原・南蒲原地方がそれにあたる。越後平野以南の新潟県西部日本海側の地域であり、北陸三県から続く真宗地帯と関川、信濃川沿いに信州から伝播してきた諏訪信仰とが融合した空間である。またこの地域は、新宗教の受容においても積極的ではなく、真宗がこの地域の宗教的エトスを形成していることが伺える。新潟県の人口の約55%はこの地域に集中している。

#### B. 曹洞宗・神明社卓越空間

曹洞宗と神明社の双方が卓越している空間である。越後平野北西部にあたる新津市、新発田市平

野部、および北蒲原郡の主な町村がそれにあたる。真宗・諏訪空間との遷移地帯にあたる、聖籠、豊栄、京ヶ瀬からさらに県をほぼ南西部にかけて縦断する地域に真宗と曹洞宗の境界があるが、この境界は日本全体における真宗と曹洞宗の区分にもなっている<sup>18)</sup>。

#### C. 曹洞宗・山岳・地域神卓越空間

この空間は県北の岩船郡から東蒲原郡、北魚沼郡にかけての朝日山地、越後山脈に沿った山間部、および十日町盆地を中心とする信濃川中流域に広がる。曹洞宗および、山を信仰の対象とする諸神社が卓越する空間である。曹洞宗の卓越地域とは同時に真宗が伝播されなかった地域ということでもあり、この空間の性格には非真宗的である点も挙げる必要があろう。山間部に位置するところから在地の山岳を対象とする神社が多く、在地性が最も高い宗教空間である。この類型は、新宗教の伝播という視点からさらに二つに分けることができる。岩船郡を中心とする北部地域と信濃川中流域は、新宗教の伝播が容易であった地域であり、教会密度の高い地域となっているのに対して、東蒲原郡を中心とする県東部地域は新宗教希薄地帯となっている。

#### D. 真言宗・白山・熊野社卓越空間

佐渡地域に特徴的に見られる宗教空間である。佐渡は越後と比較して独自の宗教空間を持ち、しかも全島的に高い均一性を持つ宗教空間である。真言宗(45.3%, 県平均の2.5倍強)と、白山社・熊野社(58.2%, 同5.4倍)の卓越にその最大の特徴があるが、同時に分布密度、特に寺院分布の密度が高く、宗教性が豊かであることも特徴である<sup>19)</sup>。また新宗教の受容にも積極的な地域であり、越後とは明確に異なった宗教空間を形成している。

#### E. 多宗派・神社混合空間

特定の宗派・教派が卓越せず、混在している空間である。寺泊、和島から小千谷、湯之谷にかけて、中越地方に見られる宗教空間である。新潟県に卓越する真宗、曹洞宗、諏訪社、神明社の勢力圏の境界地帯に位置し、さらに真言宗や日蓮宗な

どが勢力を持っている空間である。

#### F. 修験宗・臨済宗卓越空間

群馬県境に近い南魚沼地方に見られる新潟県では特異な宗教空間である。天台系の本山修験宗と臨済宗が卓越する空間である。また山岳地域ではあるが、神明社が多いことも特徴である。

以上、本稿では寺院・神社・教会の空間的分布

パターンから、新潟県の宗教空間の考察を行った。しかしながら宗教空間をさらに明らかにするためには、これらの宗教空間における地域と宗教との関わりや、信仰に関する内在的な研究が必要であり、実証的なデータの拡充が望まれる。また紙幅の都合もあり、それぞれの宗派の分布をもたらしした歴史的経緯を考察することができなかった。もって今後の課題としたい。

#### (謝 辞)

現地調査の際には、天理教の仲村嘉明氏、MOAの上田俊洋氏をはじめとする皆様方にたいへんお世話になりました。本稿作成にあたっては、奥野隆史先生をはじめとする筑波大学地球科学系の先生方、特に手塚章先生には丁寧な御指導を賜りました。分析の手法に関しては、筑波大学地球科学研究科の吉村忠晴氏に御教示を戴きました。また製図の際には、同研究科渡辺正和、堤 純の両氏、筑波大学比較文化学類の寄宗千恵氏の御助力を得ました。以上記して厚く御礼申し上げます。

#### 【注及び参考文献】

- 1) 宗教年鑑の宗教団体数は、宗教法人と非宗教法人の団体数の合計を指す。平成3年版の宗教年鑑によると、神道系の宗教団体の数は新潟県が4,800を数えており、これは2位である兵庫県の3,872を遥かに凌駕する全国の第1位である。
- 2) 新潟県文書学事課編(1986):『新潟県宗教法人名簿』による。但し非宗教法人は含まれていない。
- 3) この9つの系統に新潟県の全神社の67.8%が含まれている。
- 4) 金井典美(1982):『諏訪信仰史』名著出版, 27p.
- 5) 前掲4), 857~859.
- 6) 前掲4), 859.
- 7) 前掲4), 859~863.
- 8) 前掲4), 855.
- 9) 新潟県の地域神は一般に規模が小さく、他県に広がるものはほとんどなく、わずかに弥彦神社が福島、長野県下に見られる程度である。
- 10) ヒエロファニー(hierophany)は、日本語で聖体示現とも訳される。聖なるものの顕れを意味する。cf. Eliade, M., (1969): *The Sacred and Profane, : The Nature of Religion*, Translated from the French of Willard R. Trask, New York, 256p.
- 11) 教会に関しては、平成2年現在の教団資料、布教所に関しては、昭和59年現在の教団資料による。
- 12) 高野友治(1957):『天理教伝導史四』天理教道友社, 115p. 及び聴きとりによる。
- 13) 石井研士・磯岡哲也(1989):『新宗教の展開』井上順孝他『新宗教事典』弘文堂, 39~48を参照。
- 14) 天理教の教線に関して詳しくは、前掲12)を参照。
- 15) 特に1925年(大正14年)は、62の教会が設立されている。
- 16) ここでは、教会1に対し、布教所0.2の割合で計算している。例えばある市町村で教会1、布教所2であれば、1.4個の教会があるとみなしている。これは教会と布教所の信者数がおおよそ5:1であることに基づいている(聴きとりによる)。また寺院・神社の分布を構成比から出したのに対して、天理教では対人口比を用いたのは、新宗教が個人の信仰を主な基盤にして成立しているからである。

- 17) 高野友治 (1958) : 天理教の分布と既成教宗団との関係. 天理大学学報, **26**, 21~40.  
同 (1970) : 日本宗教分布の研究 (序) - 天理教の伝導に関連して. 天理大学学報, **65**, 1~19.
- 18) 内田秀雄による一連の仏教地理学研究が示唆的である. 内田秀雄 (1971) : 『日本の宗教的風土と国土観』大明堂, 95~127を参照.
- 19) 新潟県内市町村の対人口による寺院密度を比較すると, 上位10町村の中で佐渡の町村が5つ (畑野, 相川, 新穂, 赤泊, 金井) を占めている. また佐渡は天理教の他にも, 金光教など他の新宗教の教会も多い.